

# 八重山地方における環境に配慮した家畜の 外部および内部寄生虫対策について

帯広畜産大学畜産科学科助教授 倉持 勝久  
客員教授(メリアルジャパン学術部長)中村 行雄

## 八重山地方における畜産の特徴

- ① 放牧主体の土地利用型
- ② 離島の隔離された環境
- ③ 和牛の素牛の生産が主体
- ④ 畜産専門農家が比較的多い

八重山地方の放牧牛に寄生しているハエ類の個体数  
(2003年9月の調査結果に基づく)

観察牧場	ハエ類の種類			
	チビイエバエ	ウスイロイエバエ	サンバエ	その他
石垣A	12.6	12.5	14.5	2.6
石垣B	22.5	8.3	21.7	6.4
黒島A	42.5	15.8	18.4	3.3
黒島B	17.3	11.4	22.7	4.7

## これらの内部寄生虫による被害は

分娩直後の子牛の下痢症状が激しくなる  
1日当たりの体重増加率(DG)が減少する  
母牛の空胎日数が増える

## これらの外部寄生虫による被害は

吸血に伴うストレスによりDGが減少する  
牛の忌避行動などにより管理に支障が出る  
新たな牛の感染症が媒介される

## 駆虫プログラムを導入してから

- ・糞便中に含まれる内部寄生虫が激減した
- ・サンバエを除く外部寄生性ハエ類の個体数が約1/3になった
- ・害虫類の発生源である糞虫のハエ類が激減した
- ・糞分解性の甲虫類の個体数は変化しなかった

黒島の3牧場(放牧地)の牛糞(100gあたり)から  
発生した昆虫類(2004年3月の調査に基づく)

発生した昆虫類の種類名	発生個体数		
	A牧場(4)	B牧場(4)	C牧場(4)
ハエ類			
リュウキュウミドリイエバエ	24.6	27.8	2.6
ウスイロイエバエ	6.7	8.4	0
チビイエバエ	5.4	5.2	0
ツヤホソバエ spp.	265.8	312.4	185.3
糞虫類			
ガムシ sp.	6.8	7.5	6.9
エンマコガネムシ sp.	0.8	0	0.5

AおよびB牧場はイベルメクチンによる駆虫は行っていない

## 八重山地方における内部寄生虫に関する疫学的調査結果

### 糞便検査結果

● 検査頭数: 63

寄生虫卵	陽性頭数	陽性率
一般線虫	49 頭	77.8 %
乳頭糞線虫	16 頭	25.4 %
毛細線虫	1 頭	1.6 %
牛鞭虫	6 頭	9.5 %
コクシジウム	60 頭	95.2 %
条虫	14 頭	22.2 %
肝蛭	1 頭	1.6 %
脾蛭	1 頭	1.6 %
双口吸虫	35 頭	57.4 %

## 更なる前進を目指して！！

・より効果が高く、経済的なプログラムの構築→疫学的アプローチと実験的検証システムの充実

・研究成果の現場への適応→様々な講習会などの開催(すでに2回開催済み)

・八重山地区以外での駆虫プログラムの実践を目指す→特に北海道と東北地区

